

# 概要報告

実施期日	令和7年8月1日(金)
部会名	中学校 総則部会

## 研究主題

主体的・対話的で深い学びからの授業改善

## テーマ

『学校教育目標の『人間性豊かに、未来を創造していく力』の育成  
～One Page Portfolio Assessment の活用による主体的・対話的で深い学びの実践と  
指導改善・学習改善～』

## 提案概要

提案校では、学校目標に掲げている資質・能力を育むために主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う方法として、OPPAの研究を2020年度より進めてきた。2024年度からはOPPAという手法一つに絞らず、研究テーマを広げてWell-beingの実現を目指すこととしたが、その実現に向けてOPPAは重要であると考え、現在も研究を継続している。

- OPPAの構成は次のようになっている。
  - ① 学習(単元)前後の本質的な問い
  - ② 授業履歴(授業の題名と今日の授業で1番大切だと思ったことを記述)
  - ③ 学習後の省察
- 具体的なOPPAの活用
  - ・学習前後の本質的な問いにより、視覚的に自己の成長を感じ取ることができる。
  - ・日々の振り返り(資質能力の育成)
    - ① モニタリング→学習がうまくいっているかの評価
    - ② コントロール→モニタリングの判断に基づき修正する過程
    - ③ コーチング→モニタリングをコントロールにつなげる(コメント等)
- 成果と課題
  - ・ 成果
    - ① 教員の指導改善と生徒の学習改善につながる。
    - ② 『主体的・対話的で深い学び』や『形成的評価』等、生徒の活動を把握するツールになる。  
→生徒の学習改善による学習を調整・把握しながら取り組む力(メタ認知能力)を育成することによって、生徒の自己肯定感向上につなげることができる。
  - ・ 課題
    - ① 生徒・教員の負担が大きい。生徒は毎回の授業で振り返りを書くことになり、教員はそれを毎回確認することになる。
    - ② 基本的には記号を活用し、必要があればコメントをするというやり方をしているが、それでも時間がかかる。
    - ③ 提供校ではOPPAを学習評価に入れていない。評価に入れるとなると、生徒が忸度し、思ったことをそのまま書かなくなってしまうことが予想される。しかし、評価に入れたいと考える教員もいる。理想は、ありのままを書くことができ、尚且つ評価にも反映できることである。

## 質疑応答

- 学校行事を「生徒中心」にやらせているということだが、休み時間や放課後も使用している

となると、お互いの負担が大きいのでは？  
→その通りである。もう少し、改善できるように試行錯誤を今後もしていく。

### 協議の柱及び協議概要

参加者の地区と校種が別れるように5～6人のグループを作り、自己紹介をした後に次の2つを協議の柱とし、話し合った。

#### ① 『学校教育目標の実現に向けた授業を通しての各校の取組』

- 年度はじめに、生徒が学校教育目標を学ぶ時間がある学校がある。
- 学校教育目標と各教科の性質が異なる部分がある。
- 「教えなければ」という感覚が優先してしまい、学校教育目標を意識できていない。
- 社会の変化をふまえ、学校教育目標を検討したい。
- 職員間での共有が足りていない。
- OPPAの導入を検討したい。
- 文を書くのが苦手な子もいるので、ちょっとした声を拾えるようにしていきたい。

#### ② 『自己肯定感の向上に向けた各校の取組』

- グループ活動の活性化をしたい。
- 教え合いなどを多く取り入れる。
- コーチングの重要性を感じる。
- 良い発言や考えを積極的に拾う。
- コメントなどを通じて、子どもたちの自主性を育てる。

### まとめ概要

今回の研究発表を通じて、OPPAの取り組みが教師の授業改善・生徒の指導改善に効果的であることがわかった。提供校から話題として出てきた、教師・生徒の負担については検討の余地があるが、多くの参加者から取り入れていきたいという声が出た。

また、OPPAなどの記述による生徒の声を拾うだけでなく、普段の授業からグループ活動や教え合い活動などで出てきた発言や考えも積極的に拾い、それらにコメントをすることを通じて自己肯定感を育てていくことも必要だと考えられる。

助言者からは、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、生徒の取り組みを可視化し、次に活かしていく教師と子どもの双方向の取り組みが重要であること、また、教師が「主体的・対話的で深い学び」について理解できているか、子どもが主体になっているかも重要であることを助言していただいた。

また、学習評価に関して、学習の価値を生徒に見出させるために工夫をすることが必要という助言もいただいた。